

# 平成27年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設運営を通じて県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

今年度は滋賀県立陶芸の森が平成2年6月に開設されて25周年をむかえる。陶芸の森のこれまでの25年間を検証するとともに次のステージへの新たなスタートと位置づけ、陶芸の森からまちなかへ、そして信楽から世界へ人と情報を発信する絶好の機会ととらえ各種記念事業を実施する。また、県および甲賀市からの指定管理も今期の最終年度を向かえることから、総まとめをおこなう一方で、次期指定管理者としての選定を受けるべく準備を整える。

## 第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

### 1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理をおこない、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

#### (1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森という施設の名にふさわしく、陶芸家の創作作品の野外設置を進め、いわば野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

#### (2) 花咲く太陽の広場

太陽の広場から陶芸館にかけての斜面の桜の手入れ等をおこない、また草花を植栽し景観を向上させる。

#### (3) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらう。

#### (4) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

### 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点のひとつである陶芸の森では、地域資源の信楽焼を活かした集客促進のための事業をおこなう。

そのひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種講座や陶器市等の様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創り、リピーターの増加に努める。また、(公社)びわこビジターズビューローや観光協会等と連携し、陶芸の森を含めた信楽の地域資源を活かした観光ルート等の提案やPRをおこなう。

#### (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

#### ア. 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学ぶことができる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

##### (ア) ミニ窯をつくろう！

<開催日>平成27年5月31日(日)

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくる。後日窯で素焼して、炭を燃料にした焼成をおこない、窯の仕組みの理解と焼成を体験してもらう。

##### (イ) ラク焼上級講座

<開催日>平成27年6月14日(日)

粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得をめざす。また、後日焼成した茶碗を持参し茶会をおこなう。

##### (ウ) 練り込み技法でうつわをつくろう！

<開催日>平成27年6月28日(日)

練り込みの技法で皿や鉢などのうつわをつくる。

##### (エ) しがらき学ノススメ+1 — 鑑賞&作陶 講座 —

<開催日>平成27年7月12日(日)

<作陶講師>榎本佳子

作品鑑賞と作陶体験からやきものを学ぶ、特別鑑賞塾と実技講座をセットにしたユニークな講座。学芸員とともに、陶芸館所蔵の名品を手じっくりに鑑賞した後、作家の指導のもと対象作品のイメージや模様に加えながら再構成し、独自の造形作品づくりに挑む。

##### (オ) 陶アクセサリーをつくろう！ 【新規】

<開催日>平成27年7月19日(日)

エジプシャンペーストを使いアクセサリーを制作する。その日に制作、焼成、夕方には窯出しができる。園内見学、町内見学を組み合わせた1日で完結する講座。

##### (カ) 上絵付けに挑戦！

<開催日>平成27年10月25日(日)

お皿に上絵付けの技法で絵付けをする。

##### (キ) 手びねりでうつわをつくろう！

<開催日>平成27年11月15日(日)

陶芸初心者を対象にした入門講座として開催する。食器づくりや花器づくり等をテーマに取り上げ、やきものを制作する基本技法である手びねりの習得をめざす。

#### (ク) イッテコイ窯焼成講座

<開催日>平成27年12月6日(日)

イッテコイ窯で作品を焼成する講座を開催する。粘土3kgで茶碗、食器など自由に作陶し、必要に応じて施釉する。イッテコイ窯で焼成することで、薪の単窯での焼成の妙味を体験してもらう。

#### (ケ) つくった器に盛って食事を楽しむ【新規】

<開催日>平成27年12月13日(日)

懐石の器づくりを学び、完成後は自らの作品を料亭に持ち込み、料理人がつくった本格的懐石料理を楽しむ。

#### (コ) ラク焼講座

<開催日>平成28年3月13日(日)

粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得をめざす。

### イ. 穴窯体験講座の開催

#### ◎初級講座

<開催日>平成27年8月16日(日) 平成27年10月4日(日)

#### ◎中級講座

<開催日>平成27年9月20日(日)

#### ◎上級講座

<開催日>平成27年9月26日(土) 27(日)

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成する体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。初級、中級、上級講座とクラスに分けて募集する。初級については、初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をおこない、信楽焼に対する関心、理解を深める。中級は、一歩踏み込んでより高度な技術の習得をめざし花瓶などを制作する。また、上級講座では、大壺などを制作し、高度な技術の習得をめざす。

### ウ. 穴窯焼成クラスの開催

<開催日>説明会 平成27年5月16日(土)

焼成日 平成27年9月19日(土)～23日(水・祝)

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、一定量の粘土を渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざす。穴窯講座のリピーターの受け皿として機能させていく。

### エ. スイッチバックキルン焼成クラスの開催

<開催日>説明会 平成27年8月16日(日)

焼成日 平成28年3月16日(水)～21日(月・祝)

一昨年度に築窯したスイッチバックキルンを、今年度は、信楽焼らしい焼き締めを焼成できるための試験焼成と位置付け、一定量の粘土を参加者に渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく操炉技術の習得を目指す。

### オ. 登り窯講座

#### ◎中級講座

<開催日>平成27年11月8日(日)

#### ◎上級講座

＜開催日＞平成27年10月31日（土）、11月1日（日）

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

講座は、中級、上級講座に分けて募集する。中級はテーマを設け、作品づくりを通して信楽焼、登り窯焼成に対する関心、理解を深めてもらう。上級は、一步踏み込んでより高度な技術や大物の制作技術の習得をめざす。

#### カ. 登り窯 グループ参加の部

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行う。焼成は参加者に担当してもらう。

#### キ. 団体受付「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

＜開催日＞平成27年7月の週末（金・土・日）の3日間

＜参加者＞通信学部3年次生 25名～30名

手びねりによる、30～40cm程度の花瓶などの制作および町内見学をする。

### (2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休には、地域グループの主催による陶器市を開催する。

#### ア. 第9回 しがらき作家市 in 陶芸の森の開催

＜開催日＞平成27年5月2日（土）～5日（火・祝）

＜主 催＞信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会

＜後 援＞公益財団法人滋賀県陶芸の森

信楽町内の陶芸家を中心に組織している「信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会」との共催で、5月の連休に「手づくりのやきもの」を販売するイベントとして開催する。

#### イ. 「第20回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森」の開催

＜開催日＞平成27年10月10日（土）～12日（月・祝）

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として開催する。

#### ウ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

陶芸の森園内および周辺散策路を利用し、ウォーキングを通して陶芸の森の豊かな自然を満喫してもらう。園内に設置された野外作品の鑑賞やニュースポーツ体験を実施することにより、幅広い年齢層が楽しめる企画として開催する。

#### エ. 陶芸の森フォトコンテスト

四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた陶芸の森を素材として、フォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の魅力発信と公園機能の活用を図る。

また、同じテーマで年間を通じて写メールを募集。魅力的な写真をSNSで紹介することにより、気軽に陶芸の森とのつながりを持つ機会を創出し、陶芸の森ファン層の形成に努める。

### (3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティ

ストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

#### (4) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために各種メディアへ積極的にパブリシティをおこなうとともに、びわこビクターズビューロー等と連携し、団体客の誘致にむけた積極的なPRに努める。

#### (5) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

#### (6) レストランへの施設貸与【収益事業】

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図る。

#### (7) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図る。

### 3. 施設の管理

地域の産業、文化および観光の拠点施設としての機能と、来園者にやすらぎを感じてもらえる施設として良好な状態を維持し、一層利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努め、また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努める。

### 4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動をおこなう中で、ご支援をいただけるよう周知活動をおこなう。

## 第2 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業

今年度は25周年事業の一環として、陶芸館でこれらの展覧会を通して、これまで紹介することのなかった新しい視点から陶芸を紹介し、やきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールする。

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすくやきもの魅力を伝える展覧会を企画発信していく。

来園者の少ない冬季(12月中旬～3月上旬)には陶芸館を休館し、収蔵品収集審査会を開催し、収蔵品の状態チェック、陶芸に関する調査、普及活動、展示設備点検にも力を入れる。

#### (1) 特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン」

<開催期間>平成27年4月1日(水)～6月7日(日) 65日間

(平成26年度からの継続)

<共催>公益財団法人滋賀県陶芸の森、京都新聞、

一般財団法人NHKサービスセンター

＜後援＞スウェーデン大使館、滋賀県教育委員会、甲賀市、エフエム京都

＜協賛＞信楽高原鐵道株式会社

＜協力＞フィンエアー、フィンエアーカーゴ

＜企画＞アートインプレッション

＜企画協力＞トンカチ、実業之日本社

北欧のデザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ている、リサ・ラーソン。リサが、インスピレーションを受けたという戦後日本でも注目されたスウェーデンの陶芸家スティグ・リンドベリや、アメリカのピーター・ヴォーコスらも紹介しながら、1950年代から現代までのユニーク・ピース（作品）や、人気の「小さな動物園」、「アフリカ」などリサによる動物デザインシリーズやユニセフの「世界の子どもたち」などのプロダクト作品など230点余りを一堂に展示し、リサの陶芸デザインを集大成した日本で初めての本格的な回顧展を開催する。

## (2) 特別企画展「土・祈り・イマジネーション…岡本太郎の言葉とともに」展

＜開催期間＞平成27年6月14日（日）～9月23日（水・祝） 87日間

1950年代、日本の美の根源を伝統の中から探り、芸術とは生きることそのものだと綴った岡本太郎。はつらつとした彼の芸術論をひもときながら絵画とともに岡本みずからも傾倒した土の芸術を、6つのシーンからたどる。

岡本が撮影した縄文土器や弥生土器に映し出された古代特有の呪術的な世界。パプアニューギニアの精霊の息づく人々の暮らしの中の祈りの美。素材の特徴を捉えながら作り進む画家や彫刻家たちの土との対話。自由に土とふれあいながらつくる子どもたちの造形。土という素材に解き放たれた人たちの作品は、つくることは生きることだと教えてくれる。

国や時代、領域を越えて、つくり手たちのイマジネーションを刺激してきた土が魅せる迫力あふれる土の芸術の数々を紹介する。

## (3) 特別展「信楽への眼差し」

＜開催期間＞平成27年10月4日（日）～12月13日（日） 61日間

信楽焼は中世の時代に始まり、現代まで連続と続いてきたやきものである。その長い歴史の流れの中で、信楽焼は時代に寄り添いながら様々なやきものを生み出し、各時代の人々に選ばれ使われてきた。本展では、信楽焼に各時代の人々の眼差しがどのように向けられ、鑑賞されてきたのかを追いながら、信楽焼の魅力を再発見する。

## (4) マイヤー・フレデリック・ガーデンとの共同開催

公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今《伝統と革新》」

＜開催期間＞平成28年3月12日（土）～3月31日（木） 17日間

（平成28年度への継続事業）

アメリカ・ミシガン州と滋賀県の姉妹友好交流を契機とした、フレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークとの共同企画による公募展。日本では伝統と革新のはざまのなかで、多彩な陶芸文化をつくりだしてきた。この展覧会では伝統的な技法による器から造形作品まで、幅広い展開をみせる現代の日本陶芸の様相を、日米の審査員が選定した作品約20点を通して紹介。未来を見据えたこれからの日本のやきものを模索してゆく。アメリカで2015年9月16日～2016年1月31日（予定）に開催した後に、凱旋展として陶芸の森で開催する。

## (5) 陶磁ネットワーク会議への参加

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館・博物館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換をすすめ、共同企画展の開催、共同研究、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的とする。

本年度は、山口県立萩美術館・浦上記念館で開催予定の本会議への出席および、平成26年度に開催した共同企画展「やきものって何ダ？ー陶芸美術館8館の名品に学ぶ」の終了後の実行委員会への出席等を予定している。

＜参加館＞滋賀県立陶芸の森陶芸館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、福井県陶芸館、兵庫陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

## (6) 収蔵品収集（管理）事業

陶芸館では収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を隔年で開催し、候補作品について審議している。また、価格評価に関しては、外部の有識者で構成する収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

そのほか、台帳の整備や危機管理への対策も計画的に実施し、作品に関する記録保存、盗難および地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の管理と活用、保全に必要な種々の業務を実施している。今後も継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の有効活用と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備を進める。

## (7) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、理解していただく情報発信の場として活用してきた。今年度は信楽焼の基礎を学ぶ企画を加えて、陶芸の森の独自性を示していく。

### ア. 「つちっこ！なるほど！やきものコーナー」

＜開催期間＞平成27年6月14日（日）～7月20日（月・祝） 32日間

粘土や釉薬などやきものの不思議に触れる作品や標本資料、写真パネルなどを通して解り易く解説する展示。

### イ. 「子どもたちの土の造形ー本物との出会いから展」

＜開催期間＞平成27年7月25日（土）～8月30日（日） 31日間

小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

### ウ. 「信楽焼って、どんなやきもの？」

＜開催期間＞平成27年9月5日（土）～9月23日（水・祝） 20日間

信楽焼の基礎的な歴史や技術を学ぶ展覧会。作品や道具などの実物資料のほか、解説パネル展示やビデオ上映などを行い、信楽焼への理解を深めるとともに普及啓発に努める。

## (8) しがらき学ノススメ+1 ー鑑賞&作陶 講座 ー【再掲】

＜開催日＞平成27年7月12日（日）

作品鑑賞と作陶体験からやきものを学ぶ、特別鑑賞塾と実技講座をセットにしたユニークな講座。学芸員とともに、陶芸館所蔵の名品を手じゅく鑑賞した後、作家の指導のもと対象作品のイメージや模様を手を加えながら再構成し、独自の造形作品づくりに挑む。

## (9) 博物館実習

＜実施期間＞平成27年8月25日（火）～8月28日（金）

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・122名を実習生として受け入れてきた。展覧会と普及啓発についての講義、ま

た作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習をおこなう。

## 2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業）

今年度は通常の国内外からスタジオ・アーティストの受入れのほか、陶芸の森25周年事業にあわせて、ゲスト・アーティストの招聘等をおこない、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させる。その観点から「創作研修館オープン・スタジオ」を強化し、交流の機会を増やすことで、信楽焼の振興に務める。また、国際シンポジウムの開催を機に、海外の類似機関との連携を強化に努める。

### （1）スタジオ・アーティストの受入れ

例年同様に40名程度を受け入れる。昨年度応募システムの機能を改善したことから事務手続きがより簡略化された。今年度は、スタジオ・アーティストの作品制作がよりスムーズに進むよう、情報閲覧室にある陶芸関係の資料とやきもの相談員制度等を活用して、技術面からのサポート体制を充実させたい。また、陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を連れて、信楽の陶芸家やメーカーの工房見学を積極的におこなうことで信楽焼の担い手たちとの相互交流を活性化させる。

### （2）ゲスト・アーティストの招聘

今年度は、10名のゲスト・アーティスト（うち3名は公募枠）を招聘する。また8年目を迎えるゲスト・アーティストの公募については、昨年応募者が20名を超えたが、さらに各国からの応募者拡大に努める。また11月には選考委員会を開催し、優秀な作家の招聘にあたる。

- ジェニファー・リー（イギリス、前年度から継続、推薦枠）平成27年4月
- 西田泰代、ヴラディミール・グロフ（チェコ、前年度から継続、公募枠）平成27年4月
- 矢部俊一（岡山県、公募枠）平成27年4月～7月
- 今野朋子（インドネシア在住、公募枠）平成27年6月～8月＋平成27年秋以降
- 小松誠（埼玉県、推薦枠）平成27年6月
- リズ・ウィリアムス（オーストラリア、公募枠）平成28年2月～3月
- ベンテ・ハンセン（デンマーク、推薦枠）平成28年2月～3月
- 神谷紀男（千葉県、推薦枠）平成27年10月～11月
- 町田桂子（フランス在住、前年度から継続、公募枠）平成28年1月
- 青木克世（東京、前年度からの繰越、推薦枠）平成28年1月～3月

### （3）創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会の開催

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、スタジオを公開し、滞在作家や職員によるレクチャーやワークショップ等をおこない、一般の来園者や産地後継者とアーティストの交流を図っていく。また、陶芸研究者による講演会等を開催し、「陶芸に関する考え方」の知識をレジデンス関係者や地域の陶芸関係者に教授する機会を設け、陶芸家としてのレベルアップのきっかけづくりとする。

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| ○小松誠(ゲスト・アーティスト)レクチャー       | 平成27年5月16日（土） |
| ○矢部俊一(ゲスト・アーティスト)レクチャー      | 平成27年7月       |
| ○てい談「今、やきものは」 批評家2名による現代工芸論 | 平成27年11月頃     |
| ○ベンテ・ハンセン(ゲスト・アーティスト)       | 平成27年         |
| ○てい談「今やきものはーギャラリストの立場から」    | 平成28年2月頃      |
| ○「海外やきもの事情ー台湾のやきもの事情」       | 時期未定          |

#### (4) 創作研修館ギャラリーを基点とした情報発信、活性化

近年滞在中のスタジオ・アーティストが館内で制作の成果発表をすることが多いことから、創作研修館ロビー前のスペースをギャラリーとして整備した。今年度は、このギャラリーを起点に一層の情報発信、活性化を図りたい。については、滞在開始時にギャラリー使用の希望を確認し、希望するアーティストには発表に合わせた制作スケジュールの提案をおこなっていくほか、アーティスト同士での共同発表を提案するなど、滞在期間が短く、作品数が少ない場合にも対応していく。現在はHPと陶芸館に展覧会資料を掲載しているが、信楽町内の施設等に掲示場所を拡大していく。

#### (5) 国内外の機関との連携

アーティスト・イン・レジデンス事業（AIR事業）では、これまで50カ国から延べ約1,000人の作家が滞在制作をおこなってきた。

開設25周年記念事業として国際シンポジウムを開催する。これをきっかけとして、海外のレジデンス機能を有する各機関と双方向の交流をするために、国際的ネットワークを構築し、陶芸の森がハブとなることを目指して関係強化に努める。

今年度は、平成28年3月に開催されるNCECA（全米陶芸教育者会議）でのAIR事業のプレゼンテーションをおこない、近年、受入が減少している、アメリカでのPRとネットワーク再構築をおこなう。また受入が比較的多い、アトリエ・ダール（フランス）と受入の強化について、また、台湾、韓国、中華人民共和国などアジア圏の各国にある陶芸関連施設とも、今後の協力関係の強化について協議する。

### 3. 「つちっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的におこなう。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげる。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいを持つ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀県では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたい。

#### (1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

年々、本事業への参加校は増えてきており、陶芸や陶芸の森の素晴らしさを広めるために、学校への出張授業や児童・生徒が来園して作陶する来園プログラムを継続し、さらに美術館事業として内容を吟味しながら、新規プログラムの企画を進めていく。

本事業と「世界にひとつの宝物づくり事業」をあわせた「つちっこ」プログラムが、県教育委員会の「第2期教育振興基本計画」に位置づけられたことから、まずは甲賀市内の小中学校を中心に、新規の参加校開拓に努める。また、「つちっこ」での作品を、成果展として陶芸館ギャラリーで開催し、学校からだけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとする。

○連携授業の新規プログラムの企画など

○連携授業の講師養成事業

○学校からの来園プログラム

○陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催

○ねんどと遊ぶ事業

## (2) 夏季研修会－美術館との総合的学習のあり方を探る

### 「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携

特別企画「土・祈り・イメージーション…岡本太郎の言葉とともに」展関連企画

<開催日>平成27年7月18日（土）

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための美術館の役割を考えていく。

この研修会では、展覧会で、子どもたちの作品を展示することから、「ものづくりと身体性」をテーマとして、これまでの子どもたちのやきもの制作がどのような変化をもたらすのかを研究者らの講演を交えて考える機会とする。また研修会は、MIHO MUSEUMと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成する。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をし、両者の広報活動として広げていく。

## 第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承するという人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示をもって信楽陶器産業の振興事業をおこなう。

人材育成事業として、信楽高等学校への技術的支援や信楽焼の産業後継者を対象とした短期研修事業をおこなう。デザイン活性化事業では、信楽焼の既成商品をベースに加飾等を施し、付加価値のある商品を試作する。また、信楽産業展示館で陶器まつりの時期に開催される第83回信楽陶器総合展（主催：信楽陶器工業協同組合）に出品することで信楽焼業界への提案をおこないデザインの啓発の一環とする。

### 1. 信楽産業展示館の活用

#### (1) 信楽産業展示館での展示

平成26年度に試作したデザイン製品について、陶器まつりの際にブースを借り展示紹介することで地元業界へデザインの提示をおこなう。

### 2. 人材育成事業

#### (1) 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校との協議により、各学年に応じた学校での授業とは異なる視点に立った授業を陶芸の森で実施する。このことで、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携しておこない、地域での人材育成に努める。

#### ア. 信楽高等学校デザイン科研修

<実施期間>平成27年4月～5月頃

<対象>デザイン科3年生

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習をおこなう。完成した製品については、甲賀市や県の公共施設へ設置し、信楽高等学校の活動と信楽焼のPRにつなげる。

#### イ. 野焼き体験実習

＜実施期間＞平成27年7月～8月（焼成 3時間×2日）

＜対 象＞1年生

原始時代の土器などについて陶芸史の中で学んだことを実践させる。制作作業は学校でおこない、乾燥した縄文式土器や弥生式土器をモデルにつくられた作品を陶芸の森へ搬入後、窯の広場にて野焼きをおこなう。

#### ウ. 登り窯で焼成する伝統的なやきものの制作【新規】

＜実施期間＞平成27年9月～10月の間の平日

＜対 象＞セラミック系2年生

伝統的な信楽焼というテーマで花を生けるうつわを、伝世品やその写真を参考にしながら制作する。このことで信楽焼の伝統にふれるきっかけとする。

#### エ. 登り窯焼成実習【新規】

＜実施期間＞平成27年12月

＜対 象＞セラミック系2年生

登り窯の焼成実習および釉薬による表現の追求をする。

#### (2) 信楽焼の産業後継者を対象とした短期研修事業【新規】

ア. 小松誠（ゲスト・アーティスト、プロダクト・デザイナー）による石膏型による鋳込み成形の研修

＜開催日＞平成27年5月頃

プロダクトデザインの基本である、鋳込みの石膏型の制作実習とデザインへの考え方の研修会の実施。あと、参加者の中から希望する者の工房、工場を訪問し製品の講評をおこなう。

イ. 神谷紀雄（ゲスト・アーティスト、日本工芸会正会員）によるロクロと絵付けの研修

＜開催日＞平成27年11月頃

ロクロの実習と下絵付けの基礎技術と、うつわへの絵付けの研修をおこなう。

### 3. デザイン活性化事業

#### (1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽のメーカーが製造する花器やガーデンセットなど既存製品について、各種の加飾技法により新しい要素を加え付加価値をつけ、新しい商品に再構成することで、新たな商品の開発につながるための表面デザインの提案をおこなう。

#### (2) 海外の陶磁器デザイナーによるデザイン提案のロイヤリティーの管理

過去に、フィンランドのデザイナーにデザインを委託した商品を商品化し、生産に結び付けた。今後はロイヤリティーの管理に努める。

## 第4 企画事業

### 1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

## 2. その他

### (1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

### (2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

### (3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。

## ※ 県立陶芸の森開設 25 周年記念事業

今年度は滋賀県立陶芸の森が平成 2 年度に、伝統文化・産業である信楽焼の振興と世界の陶芸文化への貢献を目的に開設されて 25 年をむかえるにあたり記念事業を実施する。メインテーマを「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」とし、更なるステップアップのために、陶芸の森から信楽のまちなかへ、そして信楽から世界へ人と情報を発信する絶好の機会ととらえ各種の 25 周年記念事業を実施する。

### 1. 国際シンポジウム・ワークショップ

「やきものの今とその可能性」と題して、陶芸の森が 20 年余り実施してきたアーティスト・イン・レジデンス事業で蓄積してきた経験を生かし、世界各国のレジデンス事業を実施している団体との国際的ネットワークを確立、そして陶芸の森がレジデンスネットワークの国際的なハブとなることをめざし、シンポジウムとワークショップを開催する。

### 2. 25 周年記念展覧会【再掲】

今年度は 25 周年事業の一環として、陶芸館で開催する展覧会を通して、これまで紹介することのなかった新しい視点から陶芸を紹介し、やきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールする。

### 3. 地場産業の魅力発信

県内の地場産業については、各産地や産地間連携により、新商品開発や新たなブランド構築など、積極的な取組が展開されている。こうした取組について記念シンポジウムが開催される時期をとらえて、信楽産業展示館を会場とし、県内地場産業の産品を一堂に会し、国内外へ積極的に発信する場を提供する。

### 4. SHIGARAKI PROJECT (仮称)

信楽のまちなかの若者を中心とした有志による実行委員会が実施するまちなかイベントに、当財団も 25 周年記念事業の一環として主体的に参加する。